

国立公園の

協働型管理とは？

—「奥日光」を一番に！

土屋俊幸

(東京農工大学 大学院農学研究院)

奥日光との関わり

- 東京農工大学大学院自然環境保全学専攻による共同研究
 - シカの被害が生態系に与える影響を考慮した公園管理計画の構築(ELAC)。
- 公益財団法人日本交通公社の国立公園調査に参加。
- 研究室の大学院生による研究
 - 協働型管理の可能性。

目次

- 1) 国立公園における政策の動き
- 2) 協働型管理とは
- 3) 協働型管理の取り組みの現状
- 4) 奥日光は？
- 5) 奥日光を一番に！

1) 国立公園政策の動き

- 協働体制の崩壊期
 - 2000年 地方分権一括法
 - 許認可業務の法定受託の返上。
 - 2005年 三位一体改革
 - 県・市との協働体制の崩壊。
- 協働体制の再構築模索期
 - 2007年 「国立・国定公園の指定及び管理運営に関する提言」
 - 多様な主体の参画による計画策定と管理運営
 - 利用の推進と地域振興
 - 周辺地域との連携 等
 - 2008年〜 協働型運営体制のモデル事業
 - 2012年 「国立公園における協働型運営体制のあり方検討会・中間取りまとめ」
 - 総合型協議会の設置 等

2) 協働型管理とは

- 『中間取りまとめ』から
- 国立公園の運営を、地域の観光施策や教育・文化施策等と連携したものとし、**地域固有**の自然環境、歴史・文化、農林水産業等の魅力を活かした取組を行う。
- 国立公園ごとの**将来像・ビジョン**を議論・共有した上で、国立公園の**管理方針**を検討・提案するための**総合型協議会**を設置する。
- **協議会**は、地方環境事務所、国の出先機関、地方公共団体、公園事業者の代表(観光協会など)、公園管理団体、当該国立公園の自然環境・社会環境に特段の知見を有する者(研究者や国立公園の利用者を代表する者など)等で構成する。

3) 協働型管理の取り組みの現状

- 世界保護地域委員会日本委員会(WCPA-J)国内専門家会合「地域指定制自然公園の有効性・課題検証」
 - 2010年〜 3回で、国内の国立公園等計26地域事例を検証。
 - **小笠原**、足摺宇和海、阿蘇くじゅう、尾瀬、富士箱根伊豆(富士山)、上信越高原(赤谷)、伊勢志摩、中部山岳(上高地)、丹後天橋立大江山。
 - 西海、**白神山地**、**知床**、瀬戸内海、**日光**、白山、**屋久島**、吉野熊野(大台ヶ原)、大雪山。
 - 陸中海岸、南アルプス、**琵琶湖**、磐梯朝日、西表石垣、**九州中央山地**(綾)、阿寒、大山隠岐。
 - オーガナイザー、コーディネータの存在の重要性／地域振興が必須。
／多様な利害関係者間の意見交換・合意形成の「場」の必要性
／公園管理のゴールまたはビジョン策定の必要性。

3) 協働型への取り組みの現状

- ・26地域を「協働型管理」の進行状況で分類してみると、
- ・「先進」: 知床、屋久島、小笠原、尾瀬、赤谷等。
 - ・※世界遺産地域／土地所有形態が単純／プロジェクトの取り組み、等。
- ・「まだこれから」: 西海、瀬戸内海、伊勢志摩、琵琶湖、南アルプス等。
 - ・※土地所有形態が複雑／昔から開発が進む。
- ・「かなり進んでいる」: 大雪山、白神山地、白山、綾、西表石垣、日光等。

3) 協働型への取り組みの現状

- ・白山国立公園(富山、石川、福井、岐阜)
 - ・環白山保護利用管理協会 (2007年設立)
 - ・「守ろう、活かそう、伝えよう白山」
 - ・地元環境保護団体、民間会社、個人。関連行政機関(特別会員)。
 - ・5つの地域連絡会。
 - ・白山全域の情報収集、整理。自主事業の提案。各地域の支援事業の実施。
- ・南アルプス国立公園
 - ・NPO法人芦安ファンクラブ・南アルプス食害対策協議会・南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク
 - ・シカ対策の取り組み 環境省が事務局
 - ・シカを越えた総合的取り組みは？
 - ・エコパーク登録の運動。

4) 奥日光は？

- ・ほぼ1市内に収まる。
 - ・「1市一県一国」で対応できる。
- ・土地所有も、国有林、神社有地で大半。
- ・各種協議会、連絡会等の存在。
 - ・シカ保護管理計画、シカ対策ミーティング、オオハンゴンソウ除去作戦、国際観光地「日光」事業、自然公園美化推進協議会日光支部、CRTクリーンキャンペーン、いろは坂清掃活動、中禅寺湖周辺地域利用適正化推進連絡協議会、日光自然解説ガイド連絡会、冬季利用に関する情報交換会、清流清湖保全協議会、きれいにする会、湯の湖・湯川調査研究推進協議会、等々。
 - ・上記各種協議会に、多くの利害関係者(ステイクホルダー)が重複して参画。
- ・様々な主体の存在。
 - ・漁協、パークボランティア、自然ガイド、博物館、水研、等。

4) 奥日光は？



- ・顔の見える関係(ネットワーク)の形成。
- ・様々な問題・課題についての、議論の蓄積。
- ・経験の蓄積。
 - ・うまくいかないことも経験。

5) 奥日光を一番に！

- ・協働型管理の先進事例は、世界遺産登録地や国や都道府県が特別に管理経営に努力を注いだ地域にほぼ限られる。
- ・では、奥日光は？
 - ・実質的に、協働型管理のノウハウが地域で共有され、実績が蓄積されている。
 - ・これから考えるべきなのは、個別の問題・課題を超えた、総合的・横断的な、奥日光の課題・問題を考える「場」の構築。コーディネート機能を持った事務局、ビジョンの策定など。

5) 奥日光を一番に！

- ・総合的・横断的な、奥日光の課題・問題を考える「場」の構築
 - ・例えば、「奥日光会議」、「奥日光協議会」。
 - ・総合的・横断的な「場」のメリット
 - ・広い範囲で、人と人との繋がりが(ネットワーク)ができる。
 - ↑ ↓
 - ・新たな問題・課題に即応できる。
 - ・予測される問題・課題に対する予防対策が打てる。
 - ・これからの地域のあり方について、積極的に方向性を検討できる。
- ・奥日光は、標準的な国立公園の中での、協働型管理のフロントランナー！！
 - 奥日光を一番に！



ご清聴
ありがとうございました。